

案件化調査

フィリピン国 地域分散型バイオエタノール製造システム普及案件化調査

企業・サイト概要

- 提案企業：株式会社IBコンサルタント
- 提案企業所在地：島根県松江市
- サイト：フィリピン国、メロ・マニラ、イロコスノルテ地区、ヴィサヤー地区
- C/P機関：マリアノマルコス州立大学、バパミン農協、バタク市庁

フィリピン共和国における現状と課題

- 2007年バイオ燃料法制定：自動車燃料にエタノールを10%混合することを決定。一部で砂糖キビを原料として生産を行っているが、殆どは輸入。
- 2007年農業省中心に「国家スイートソルガム委員会」設立：灌漑施設のない天水農法による水田は全国で100万haに達する。乾季にスイートソルガム栽培を図るがエタノール製造設備がない。
- 国産エタノール全量買取り制度による国産化率向上を図るが、設備開発に至っていない。

中小企業の技術・製品

- 原料栽培地が、点在している山間地・島嶼部等で有効な「地域分散型エタノール製造システム」を構成する「簡易型エタノール製造装置」、「脱水器」等の製造技術及び発酵技術を有する。効率の良い酵母を有する。
- 糖質原料の場合は、刈取って発酵するまでの輸送時間がかかると雑菌により糖分が低下し、発酵効率が下がる。(大規模工場でなく地域分散化がよい)

企画書で提案されているODA事業及び期待される効果

- 民間提案型普及・実証事業展開：C/P機関・地元行政機関(バタク市)と事業体を立ち上げ、エタノール生産から混合燃料販売までの実証事業を行うと同時に、将来、エタノール製造システムの保守・運転訓練教育センターとし使用出来るような設備とする。これら実現のために国の関係機関(DOE, DOA)の協力を求める。
- 無償資金協力事業及び有償資金協力事業への展開：フィリピン政府の協力を得て全土対象に進める。

日本の中小企業のビジネス展開

- フィリピン国内での事業展開が軌道に乗った後には、カンボジア・インドネシア・ミャンマー等天水稲作を行っている東南アジア諸国への展開が期待できる。

